

『愛國婦人』 文芸関係主要記事 (二)

上田正行編

第四六五号 (大正10・1・1)

扉

愛國婦人會長

下田歌子詠書

吾等が覺悟

下田 歌子

童話 片一方の腕

河井 醉茗

少女小品 美代ちゃんのお正月

山田 邦子

歴史小説 小萩姫 (一) 六回 (四七〇号) で完

笹川 臨風

女神寓説

大泉 黒石

社會奉仕Ⅱ新時代婦人の使命——婦人の手に俟つ社會事

業

安部 磯雄

己れの存在を自覺せよ

鳩山 春子

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四六六号 (大正10・2・1)

吾が君民 (一) 二〇回 (四八四号) で完

下田 歌子

家族主義と國體

服部宇之吉

誤解されたる婦人問題

生田 長江

童話 雛のふるさと

森川憲之助

小説 蛇性

田中貢太郎

第四六七号 (大正10・3・1)

扉

民謡 山の狐

本野 久子

童話 むくひ

野口 雨情

小説 歸省

エロシエンコ

和歌

青木 健作

俳句

阪 正臣選

第四六八号 (大正10・4・1)

童話 櫻の花蔭

内藤鳴雪選

長篇小説 落ちゆく星 (一)

五回 (四七二号) で完

オツペンハイム原作 坂本由郎譯

俳句

内藤鳴雪選

第四六九号 (大正10・5・1)

童話 蝶の遠足

河井 醉茗

傳奇小説 悪女傳奇

大泉 黒石

俳句

内藤鳴雪選

第四七〇号 (大正10・6・1)

近代文學に現れたる婦人

佐藤 緑葉

童話 父親の人違ひ

遠藤しげの

灰色の姉と桃色の妹

小川 未明

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四七一号 (大正10・7・1)

小説 煙草屋喜八の出来心(二)

四回(四七七号)で完

和歌

生方 敏郎

俳句

阪 正臣選

和歌

内藤鳴雪選

第四七二号 (大正10・8・1)

批評 H家令嬢の死に對する批判——榮子の死について

和歌

本間 久雄

わが女子教育及婦人の社會奉仕に就いて(四八頁〜六五頁)

欠)

下田 歌子

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四七三号 (大正10・9・1)

童話 生ける彫像

中井 愛子

探偵小説 パナマ帽の男(二) 五回(四七七号)で完

和歌

エルヴェスタード原作 紫 王鳥譯

応募童話 あまの川

宮澤 賢治

第四七四号 (大正10・10・1)

童話 佛壇の萩の餅

遠藤しげの

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四七五号 (大正10・11・1)

我國に於ける性道德の變遷

本間 久雄

童話 眠った猫

田中まつ子

長篇小説 姉と弟(二) 七回(四八一号)で完

白石 實三

俳句

内藤鳴雪選

第四七六号 (大正10・12・1)

童話 雪渡り(その二)(小狐の紺三郎)

宮澤 賢二

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四七七号 (大正11・1・1)

童話 雪渡り(その二)(狐小學校の幻燈會)

宮澤 賢二

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四七八号 (大正11・2・1)

評論 我國に於ける性道德の變遷(承前)

本間 久雄

探偵小説 影俱樂部(二) 四回(四八一号)で完

和歌

エルヴェスタード原作 紫 王鳥譯

俳句

佐々木信綱選

和歌

内藤鳴雪選

第四七九号 (大正11・3・1)

雛まつりについて

和歌

俳句

折口 信夫
佐々木信綱選
内藤鳴雪選

詩と童謡

第四八四号 (大正11・8・1)

童謡

童話 乞食とお姫様の話

和歌

俳句

人見東明選

丹野てい子

阪 正臣選

内藤鳴雪選

第四八〇号 (大正11・4・1)

童話 王様の難題

和歌

俳句

アフアナシェーフ

阪 正臣 佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第四八五号 (大正11・9・1)

童話 一寸法師

和歌

俳句

下田 歌子

宋戸 昌吉

佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第四八一号 (大正11・5・1)

童謡 居眠り人形

童話 南洋の娘

和歌

俳句

野口 雨情

安成 二郎

佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第四八二号 (大正11・6・1)

名作物語 家の無い兒(一) 七回(四八八号)で完

エクトル・マロー原作 秋庭俊彦譯

家庭小説 花束の歌(一)

歴史小説 筑山御前(一)

和歌

俳句

詩と童謡

七回(四八八号)で完 生田 葵

七回(四八八号)で完 望月 紫峰

阪正臣 佐々木信綱選

内藤鳴雪選

人見 東明

第四八三号 (大正11・7・1)

和歌

俳句

阪正臣 佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第四八六号 (大正11・10・1)

童謡 衣服に現はれたる日本女性の人情美

和歌

俳句

童謡

マツケンズイ原作 遠藤 壽譯

阪 正臣選

内藤鳴雪選

人見東明選

衣服に現はれたる日本女性の人情美 下田 歌子

小さな公爵令嬢と獅子使ひ(上) 二回(四八七号)で完

マツケンズイ原作 遠藤 壽譯

食物にあらはれたるわが日本の國民性 下田 歌子

阪正臣 佐々木信綱選

第四八七号 (大正11・11・1)

食物にあらはれたるわが日本の國民性

和歌

俳句

阪正臣 佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第四八八号 (大正11・12・1)

住宅に現はれたるわが日本の國民性

下田 歌子

童話 王様の夢

前田 勝

意気を感じ品格を重んじたる吾が上古婦人の實例

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四八九号 (大正12・1・1)

年中行事を透して見たるわが國民性

下田 歌子

童話 雪の塔

横澤 千秋

家庭小説 二つの愛(一) 六回(四九四号)で完

津村 京村

探偵美談 涙の門出(一) 四回(四九二号)で完

パウル・ローゼンハイン原作 紫 王鳥譯

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

詩と童謡

人見東明選

第四九〇号 (大正12・2・1)

環境と美と國民の嗜好

下田 歌子

お伽噺の國から

中村 白葉

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四九一号 (大正11・3・1)

各國民性の相違と日本婦道の變遷

下田 歌子

桃の傳説

折口 信夫

童話 鬼の杖

長尾 豊

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四九二号 (大正11・4・1)

童話 王様鶴の話

中村 白葉

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

詩と童謡

人見東明選

第四九三号 (大正11・5・1)

平安朝時代の女性が重んじたるものは何

下田 歌子

童話 嫁が君

長尾 豊

探偵小説 電話の相手(一) 五回(四九七号)で完

パウル・ローゼンハイン原作 紫 王鳥譯

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第四九四号 (大正12・6・1)

花移ひて實を結べる幕政下の婦人界

下田 歌子

童話 三人の友達

永田 壺川

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

詩と童謡

人見東明選

第四九五号 (大正12・7・1)

花移ひて實を結べる幕政下の婦人界(承前) 下田 歌子

長篇小説 路をたどりて(一) 七回(五〇二号)で完

相馬 泰三

谿間の小百合

生田 葵

和歌
俳句

阪正臣 佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第四九六号 (大正12・8・1)

江戸幕政下の婦人界と平民文學の勃興

下田 歌子

小説 白い小鳥

關口 鎮雄

和歌

阪 正臣選

俳句

内藤鳴雪選

第四九七号 (大正12・9・1)

徳川幕政下に於ける武門の女性が徳操及び平民文學に氣を

吐いた無産階級の婦人

下田 歌子

月になった人 (外三篇)

長尾 豊

和歌

阪 正臣選

俳句

内藤鳴雪選

第四九八号 (大正12・10・1)

(震災特集)

第四九九号 (大正12・11・1)

(震災特集)

第五〇〇号 (大正12・12・1)

(震災特集)

第五〇一号 (大正13・1・1)

甲子の新年に謹みて更に兩回の詔書を奉讀して下田 歌子

俳句に現はれた鼠

安成 二郎

童話 大欲は無欲

長尾 豊

史外史傳 夜明前(一) 六回(五〇六号)で完

武田 鶯塘

探偵小説 盗まれた聲

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第五〇二号 (大正13・2・1)

魂の殿堂改造を要す

下田 歌子

探偵小説 亜米利加の蚊(一)(二と誤記)

三回(五〇四号)で

完

木村 幹

第五〇三号 (大正13・3・1)

わが皇室の御慶事を畏みまつりて

下田 歌子

童話 犬の失敗

安成 二郎

家庭小説 紅薔薇の家(一)

七回(五〇九号)で完 生田 葵

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第五〇四号 (大正13・4・1)

自然界と女性

下田 歌子

日本怪談夜話(一) 三回(五〇六号)で完

白石 實三

童話 鐵の杖

長尾 豊

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

童謡

人見東明選

第五〇五号 (大正13・5・1)

贈位せられたる二女史に就きて

下田 歌子

童話 不仕合せな幸運な子供

相馬 泰三

怪奇小説 生ける幻影(一) 五回(五〇九号)で完

アウエルハイマー原作 紫 王鳥譯

和歌

阪正臣 佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第五〇六号 (大正13・6・1)

贈位せられたる大慈善家瓜生岩子刀自(上)

三回(五〇

九号)で完

下田 歌子

童話

きりぎり酢(童話劇)

森川憲之助

和歌

阪 正臣選

俳句

内藤鳴雪選

第五〇七号 (大正13・7・1)

私の嫌ひな流行語(長田幹彦・有島生馬・萩原朔太郎・藤

森成吉・柴田勝衛・野口雨情・土岐善麿・宮地嘉六・白石

實三)

童話

黄金の鶏(ろしあ童話)

プーシキン原作

湯浅芳子譯

短篇

悪い頭

安成 二郎

和歌

阪正臣

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第五〇八号 (大正13・8・1)

月(歌十首)

杉浦 翠子

亡き夫(歌十首)

泉屋たか子

童話

焼かれた魚

小熊 秀雄

短篇

母と子

河合 仁

祭(「あしの葉」より)

北原 白秋

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第五〇九号 (大正13・9・1)

婦人と對外思想

下田 歌子

俳人横山花讀女——化政期俳壇の驚異——

木村 三樹

童話

兎がもぐらもちに負けた話

相馬 泰三

短篇小説

無言の散歩

小寺きく子

和歌

佐々木信綱選

第五一〇号 (大正13・10・1)

愛國婦人會石川支部の児童保護講習會後の記念撮影 (記事一一六頁)

事一一六頁)

(福岡支部)(神奈川支部)(茨城支部)(岡山支部)(佐賀

支部)(香川支部)(高知支部)(熊本支部)(山形支部)(岩

手支部)(滋賀支部)(石川支部)(奈良支部)(静岡支部)

(京都支部)(台湾支部)(埼玉支部)(三重支部)(富山支

部)

隨筆

猫がお醫者になるまで

長尾 豊

名作新物語

白石 實三

長篇小説 春愁

中村 白葉

長篇小説 一筋の道(二) 一〇回(五一九号)で完青木 健作

近代小説の翹祖ジェーン・オースティン女史 栗原 古城

短冊に和歌はどう書くか 松田竹の島人

第五一一号 (大正13・11・1)

近代小説の翹祖ジェーン・オースティン女史(承前)

栗原 古城

秋のをはり (短歌十首)

童話 鏡のない國

短篇小説 波の音

小説 おてんば娘 (一) 五回 (五一五号) で完

ギクトール・マルギュエリット原作

和歌

俳句

若山喜志子

渡邊 忠雄

坂本 石創

中井あい譯

阪正臣 佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第五一二号 (大正13・12・1)

婦人隨筆

散文詩 鴉は憎めない

童話劇 魚の値

短篇小説 静かな日

俳句

白石 實三

小熊 秀雄

長尾 豊

村山 勇三

内藤鳴雪選

第五一三号 (大正14・1・1)

婦人隨筆

童話 青い小父さんと魚

短篇小説 鐵の人

和歌

俳句

白石 實三

小熊 秀雄

宮原晃一郎

阪正臣 佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第五一四号 (大正14・2・1)

庭に立ちて

童話 ある子家鴨

短篇小説 誘惑

松田竹の島人

小林 哥津

土屋 長村

第五一五号 (大正14・3・1)

婦人隨筆

童話 藁切庖丁

長篇小説 妖精のごとく (二) 八回 (五二二号) で完

テオフィール・ゴーチエ原作 秋庭俊彦譯

和歌

俳句

阪正臣 佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第五一六号 (大正14・4・1)

婦人隨筆

童話 お嫁さんの自画像

短篇小説 神経衰弱

和歌

白石 實三

小熊 秀雄

穴戸 昌吉

阪正臣 佐々木信綱選

第五一七号 (大正14・5・1)

小作爭議と婦人の立場

婦人隨筆

童話 乞食の王様

短篇小説 或る日

和歌

俳句

下田 歌子

白石 實三

木村 幹

中條百合子

佐々木信綱選

内藤鳴雪選

第五一八号 (大正14・6・1)

婦人隨筆

童話 森の花嫁

短篇小説 空

和歌

白石 實三

丹野てい子

土屋 昌介

阪正臣 佐々木信綱選

第五一九号 (大正14・7・1)

人心變轉の實例

婦人隨筆

下田 歌子

和歌

遠山英一 佐々木信綱選

長篇小説 二つの繪(一)

六回(五二四号)で完 佐々木金之助

白石 實三

俳句

内藤鳴雪選

和歌

佐々木信綱選

俳句

内藤鳴雪選

第五二〇号(大正14・8・1)

婦人隨筆

白石 實三

俳句

内藤鳴雪選

第五二二号(大正14・9・1)

婦人隨筆

白石 實三

隨筆 秋風の窓

安成 二郎

童話 友八爺さんの失敗

川崎 春二

歴史小説 叛逆者の妻

中村 白葉

和歌

阪 正臣選

第五二二号(大正14・10・1)

童話 緋牡丹姫

小熊 秀雄

母が物語りの一節

螢川

和歌

遠山英一 佐々木信綱選

第五二三号(大正14・11・1)

婦人隨筆

白石 實三

童話 親不孝なイソクソキ(愛奴童話)

小熊 秀雄

第五二四号(大正14・12・1)

婦人隨筆

白石 實三

童話 三人兄弟と乞食

穴戸 昌吉

第五二五号(大正15・1・1)(五二四号と誤記)

一番深く記憶に残る正月の思ひ出 諸家(木村毅・安成二

郎・三宅やす子・宮原晃一郎・長尾豊・沼田笠峰・生田花

世・佐々木信綱・生方敏郎・小寺菊子・金井紫雪・宮田修・

青木健作・人見東明・吉川季次郎・内藤鳴雪・中條百合子・

本野久子・丹野てい子・三輪田元道・千葉龜雄・本田螢川・

岡落葉・昇曙夢・山田わか・白石實三・遠山英一)

童話 たばこの好きな漁師

小熊 秀雄

歴史小説 密封の室(幕末史外史傳)(一) 六回(五三〇号)で

完

木村 毅

家庭小説 星の飛ぶ夜(一) 七回(五三二号)で完 生田 葵

マンチヨーゼン男爵旅行記(一) 二回(五二六号)で完

和歌

木村 幹譯

俳句

遠山英一 佐々木信綱選

和歌

内藤鳴雪選

第五二六号(大正15・2・1)

童話 珠を失くした牛

小熊 秀雄

和歌

遠山英一選

第五二七号(大正15・3・1)

雛の起源と變遷

西澤 笛畝

童話 春が來た

徳永壽美子

和歌

佐々木信綱選

俳句

第五二八号 (大正15・4・1)

庄司瓦全 内藤鳴雪選

長篇小説 親と子(一) 十回(五四三号)で完

青木 健作
庄司瓦全選

忠臣蔵六段目に於ける法律知識と貞操觀念

西野さん郎

送別會

網野 菊

探偵小説 三人の淑女(一) 九回(五三六号)で完

オツペンハイム作 秋庭俊彦譯

和歌

遠山英一 佐々木信綱選

第五二九号 (大正15・5・1)

反女子教育向上説に就いて

下田 歌子

童話

白銀の精

川崎 春二

俳句

庄司瓦全選

第五三〇号 (大正15・6・1)

童話

お月さまと馬賊

小熊 秀雄

和歌

遠山英一

佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五三一号 (大正15・7・1)

彈力

下田 歌子

歴史小説 北の庄夜話(一)

六回(五三六号)で完 中村 白葉

和歌

遠山英一選

第五三二号 (大正15・8・1) (欠)

第五三三号 (大正15・9・1)

體力と財力との増進に就きて

下田 歌子

明治文學と一葉女史 二回(五三四号)で完

栗原 古城

童話

三人の騎士

小熊 秀雄

長篇小説 親と子(二) 十回(五四三号)で完

青木 健作
庄司瓦全選

第五三四号 (大正15・10・1)

蜘蛛と蝶

下田 歌子

童話 七色の帯

穴戸 昌吉

和歌

遠山英一選

俳句

庄司瓦全選

第五三五号 (大正15・11・1)

愛と力

下田 歌子

童話 眼のないお人形

佐々木金之助

和歌

遠山英一選

俳句

庄司瓦全選

第五三六号 (大正15・12・1)

四季をりく

下田 歌子

童話 或る手品師の話

小熊 秀雄

和歌

遠山英一

佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五三七号 (昭2・1・1)

小品 山峽新春

中條百合子

佛蘭西の思ひ出

西條 八十

歴史小説 幻の聖母(一)

九回(五四六号)で完 藤木 猶太

和歌

遠山英一 佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五三八号 (昭2・2・1)

文學と實人生 二回（五三九号）で完
愛兒篇（短歌十首）

和歌

俳句

栗原 古城
中河 幹子
遠山英一選
庄司瓦全選

和歌
俳句

第五四三号（昭2・7・1）

童話 銀色の笛

第五三九号（昭2・3・1）

隨筆

舊師の家
ある夫婦牛の話

和歌

俳句

若杉 鳥子
小熊 秀雄
遠山英一選
庄司瓦全選

第五四四号（昭2・8・1）

長篇小説 雲影（一） 八回（五五一号）で完

和歌

第五四〇号（昭2・4・1）

隨筆 春の里、春の山

和歌

俳句

白鳥 省吾
遠山英一 佐々木信綱選
庄司瓦全選

第五四五号（昭2・9・1）

時評 秋立つ頃（芥川龍之介の死）

童話 姉と妹

第五四一号（昭2・5・1）

能と謡（通俗講座 一）

四回（五四五号）で完

第五四六号（昭2・10・1）

歌舞伎劇の見方（通俗講座）

童話 猫まちがひ

時評 『木の芽立ち』
童話 海豚の親子の寓話

和歌

俳句

斎藤 香村
柳原 燁子
安成 二郎
八木 東作
遠山英一選
庄司瓦全選

岡本 綺堂
塚原健二郎
遠山英一選
庄司瓦全選

第五四二号（昭2・6・1）

新任の御挨拶

江戸巷談 お榮の良人

愛國婦人會長

本野 久子
永池長太郎

第五四七号（昭2・11・1）

童話 お話好の殿様
歴史小説 六條堀川の館 二回（五四八号）で完

和歌

遠山英一 佐々木信綱選

佐々木金之助
阿部 淑子

佐々木信綱選
庄司瓦全選

遠山英一 佐々木信綱選
庄司瓦全選

遠山英一 佐々木信綱選
庄司瓦全選

遠山英一 佐々木信綱選
庄司瓦全選

遠山英一選
庄司瓦全選

俳句

第五四八号 (昭2・12・1)

童話 狐の小父さんは怖いひと

和歌

俳句

庄司瓦全選

和歌
俳句遠山英一 佐々木信綱選
庄司瓦全選

第五五三号 (昭3・5・1)

童話 『ひょうたんのお宿』

和歌

俳句

塚原健二郎

遠山英一選

庄司瓦全選

第五四九号 (昭3・1・1)

新年の祝詞に代へて

和歌

俳句

半島越年

下田 歌子

石樽 茂

遠山英一選

庄司瓦全選

第五五四号 (昭3・6・1)

歴史小説 櫻吹雪(一) 四回(五五七号)で完

和歌

俳句

仲木 貞一

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五五〇号 (昭3・2・1)

童話 鬼つ子

幕末秘史 薩摩の密使(一)

和歌

俳句

大瀧龍太郎

四回(五五三号)で完 榛名 八郎

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五五五号 (昭3・7・1)

女性を中心としたる世界文學物語『牧場の花嫁』

アウグスト・シュトラム原作 長谷川好之

和歌

俳句

遠山英一選

庄司瓦全選

第五五一号 (昭3・3・1)

女性を中心とした世界文學物語『海に乗り入るもの』

シング原作 梅田 寛譯

和歌

俳句

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五五六号 (昭3・8・1)

童話 運命の壺

和歌

俳句

伊福部敬子

遠山英一選

庄司瓦全選

第五五二号 (昭3・4・1)

女性を中心とした世界文學物語『舞姫タイス』

アナトール・フランス原作 柳井 正夫

長篇小説 みどりの影(一) 六回(五五七号)で完 上司 小劔

第五五七号 (昭3・9・1)

童話 足の悪い龜の子 婦人の帯はどう變る

和歌

俳句

三井みさを

小熊 秀雄

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五五八号 (昭3・10・1)

女性を中心とせる世界文學物語『お婆さん同志』

フリッツ原作 梅田寛譯述

探偵小説 都會の魔手(一) 七回(五四六号)で完

C・ブレイク原作 倉田 潮譯

長篇小説 光を追うもの(一) 六回(五六三号)で完

和歌 下村 千秋

俳句 遠山英一選

俳句 庄司瓦全選

第五五九号 (昭3・11・1)

童話 トロちゃん和爪切鉋

和歌 小熊 秀雄

俳句 遠山英一選

第五六〇号 (昭3・12・1)

童話 お稲荷さんと新聞

和歌 木内 高音

俳句 遠山英一選

第五六一号 (昭4・1・1)

昭和四年を迎へて

吾妻鏡(卷三十三まで)に現はれた武士氣質

享保衣裳比べと今の流行

和歌 花井いね子

俳句 柳原 燐子

和歌 遠山英一 佐々木信綱選

第五六二号 (昭4・2・1)

童話 赤い自轉車

和歌 尾崎洋之介

俳句 遠山英一 佐々木信綱選

第五六三号 (昭4・3・1)

童話 壺の中の世界

和歌 柴田 賢一

俳句 遠山英一選

第五六四号 (昭4・4・1)

童話 ルイ爺さんの運動會

家庭小説 女裁縫師香織(一) 四回(五六七号)で完

和歌 シー・ウンセツト原作 木内高音譯

俳句 遠山英一選

和歌 庄司瓦全選

第五六五号 (昭4・5・1)

愛と櫻

童話 豚と青大將

歴史小説 女人無常

和歌 柳井 正夫

俳句 遠山英一選

第五六六号 (昭4・6・1)

童話 蓄音機と小犬

探偵小説 唐人髷お君(一) 六回(五七一号)で完

和歌 細山 兆助

俳句 遠山英一選

俳句

第五六七号 (昭4・7・1)

童話 鼠と泥棒

和歌

俳句

庄司瓦全選

下村 弘毅

遠山英一選

庄司瓦全選

第五六八号 (昭4・8・1)

詩 幸

童話 子供達と寫真

長篇小説 明け行く道 (一) 三回 (五七〇号) で完上原 立造

隨筆 長良川から養老へ 二回 (五七〇号) で完 堀口 大學

和歌

俳句

竹内てるよ

柴田 賢一

堀口 大學

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五六九号 (昭4・9・1) (欠)

第五七〇号 (昭4・10・1)

童話 碧い玉

和歌

俳句

薪田 良作

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五七一号 (昭4・11・1)

童話 かつこう物語

探偵小説 林の中の殺人 (一)

三回 (五七三号)

で完

塚原健二郎

佐々木金之助

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

和歌

俳句

第五七二号 (昭4・12・1)

童話 赤いマント

中篇小説 故郷 (一) 四回 (五七五号) で完

和歌

俳句

倉田 潮

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五七三号 (昭5・1・1)

童話 とんまの六兵衛

初春の歴史物語

講談 鏡山草履の仇討

和歌

俳句

下村 千秋

竝木 英男

富本 夜洲

遠山英一 佐々木信綱選

第五七四号 (昭5・2・1)

歴史小説 明石の上 (一) 六回 (五七九号) で完

和歌

俳句

五島美代子

遠山英一選

庄司瓦全選

第五七五号 (昭5・3・1)

思ひ出の記 (彌生の巻)

和歌

俳句

下田 歌子

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五七六号 (昭5・4・1)

思ひ出の記 (花祭の暴風)

女性の歴史物語

和歌

俳句

下田 歌子

吉田三男也

遠山英一 佐々木信綱選

庄司瓦全選

第五七七号 (昭5・5・1)

思ひ出の記(端午の節供)
童話 山と森の話

ジャンダーク物語

和歌

遠山英一

下田 歌子
柴田 賢一
吉田三男也
佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五七八号(昭5・6・1)

思ひ出の記(六月の巻、蚊)

讀物 女の仇討物語

家庭小説 最後のもの

和歌

遠山英一

下田 歌子
吉田三男也
西宮四十二
佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五七九号(昭5・7・1)

思ひ出の記(于蘭盆會)

童話 綱渡り少年

事實小説 村の聖母(一)

和歌

二回(五八〇号)で完
佐々木金之助
遠山英一選

俳句

庄司瓦全選

第五八〇号(昭5・8・1)

思ひ出の記(觀月の宴)

和歌

遠山英一

下田 歌子
佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五八一号(昭5・9・1)

思ひ出の記(重陽の節供)

長篇小説 明日ひらく(一)

五回

(五八五号)

で完
塚原健二郎

下田 歌子

和歌

遠山英一

佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五八二号(昭5・10・1)

思ひ出の記(十月の巻)

和歌

下田 歌子

俳句

遠山英一選
庄司瓦全選

第五八三号(昭5・11・1)

思ひ出の記(十一月の巻)

和歌

下田 歌子

俳句

遠山英一選
庄司瓦全選

第五八四号(昭5・12・1)

思ひ出の記(十二月の巻)

和歌

遠山英一

佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五八五号(昭6・1・1)

つれづれの記(一月の巻)

和歌

遠山英一

佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五八六号(昭6・2・1)

つれづれの記(二月の巻)

中篇小説 更生(一)

四回(五八九号)で完

和歌

西田 芳夫

俳句

遠山英一選
庄司瓦全選

第五八七号(昭6・3・1)

つれぐの記 (三月の巻)

下田 歌子

野外の音楽及照燈

下田 歌子

時代小説 白梅草紙 (二) 四回 (五九〇号) で完

阿部 淑子

和歌

遠山英一選

和歌

遠山英一選

俳句

庄司瓦全選

俳句

庄司瓦全選

第五九三号 (昭6・9・1)

第五八八号 (昭6・4・1)

清新

下田 歌子

吾等が食物

下田 歌子

遠山英一 佐々木信綱選

和歌

遠山英一 佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

第五八九号 (昭6・5・1)

第五九四号 (昭6・10・1)

吾等が衣服

温古

下田 歌子

和歌

遠山英一選

遠山英一 佐々木信綱選

俳句

庄司瓦全選

俳句

庄司瓦全選

第五九〇号 (昭6・6・1)

待て暫し

八波 則吉

美髪と美容 上品でさつぱりとした夏向の髪結び方吉行あぐり

事實小説 愛にかぐやく女校長

藤原 清致

新講談 乃木將軍 (二) 五回 (五九四号) まで

山下 静遊

和歌

遠山英一選

俳句

庄司瓦全選

第五九一号 (昭6・7・1)

吾等が住居

下田 歌子

時代小説 嵯峨の宿 (二) 四回 (五九四号) で完

阿部 史子

和歌

遠山英一選

俳句

庄司瓦全選

第五九二号 (昭6・8・1)

国会図書館所蔵の「愛國婦人」はここまでであり、その後、どうなったのか不明であつたが、継続誌が東京都立中央図書館に六十一冊架蔵されていることが分かった。

欠号が多いが第七号 (昭7・7・7) の奥付から昭和七年四月四日に第二次の「愛國婦人」が再刊されたことが分かる。七号はタブロイド判の新聞紙体裁で頁数も少ないが、二十四号 (昭8・12・7) は雑誌の体裁を取っている。しかし、経済事情によるものか頁数は三十頁前後と薄く、一次の雑誌と比較すると見劣りするものとなっている。文芸欄も貧弱になり内容的にも見るべきものは少ない。

昭和十七年二月十日号をもって終判となり、母体の愛國婦人会は大日本婦人会に発展解消されその使命を終える。今回、資料的意味を考えて六十一冊、全ての刊行年月日を漏れなく拾った。

直、百一号より表紙に「長野縣支部版」の朱印字が刷り込まれているが、発行所は東京市麴町区九段一ノ五の「愛國婦人會」となっており、長野県で発行されたものではない。各支部ごとに朱印字が刷り込まれたものかと思われる。

第二次『愛國婦人』

第七号 (昭7・7・7)

特号タイトル ○如何にして窮迫せる農村の不況を打開するか？

時局多事！奮起を望む

各支部の動き

童話 なんでもない

にいほり さとし

第二四号 (昭8・12・7)

日本國民に懇ふ(二五号)で完

松岡 洋右

各支部の動き

第二五号 (昭9・1・7)

皇恩を拜し奉りて

會長 本野 久子

各支部の動き

第二九号 (昭9・4・7)

第三一号 (昭9・5・20)

各支部の動き

孝女白菊の犠牲(三)

落合 二郎

第三二号 (昭9・6・7)

思想傾向と國民教育

各支部の動き

孝女小菊の犠牲(完)

長谷川如是閑
落合 二郎

第三三号 (昭9・7・20)

第三四号 (昭9・8・7)

満州事變に示されたる我が國婦人の意氣

愛國婦人會事務總長 小原 新三

第三五号 (昭9・9・7)

愛國婦人會に對する誤った批判

小原 新三

第三六号 (昭9・10・7)

広告 奥村五百子(小野賢一郎著)

第三七号 (昭9・11・7)

朝鮮同胞と婦人報國

本野 久子

東北凶作地の子女を救へ——身売防止と其対策——

安藤 為造

満州に殺到する——邦人特別婦女の問題について——

平林 広人

第三八号 (昭9・12・7)

おゝ起ちて同胞の惨苦を救へ 売られて行く女子達を護れ
(東北凶作地救済義捐金募集)

愛國婦人會

第三九号 (昭10・1・7)

新年の辞

本野 久子

新年の覺悟

水野萬壽子

第四〇号 (昭10・2・20)
 第四二号 (昭10・3・15)

婦人と報國運動

東京日々新聞社客員 千葉 龜雄

第四三号 (昭10・4・7)

第四四号 (昭10・5・17)

第四五号 (昭10・6・15)

第四六号 (昭10・7・26)

ご挨拶

愛國婦人長野縣支部長 大村 康子

第四九号 (昭10・8・10)

第五〇号 (昭10・9・7)

第五一号 (昭10・11・7)

第五二号 (昭10・12・7)

第五三号 (昭11・1・7)

第五四号 (昭11・2・25)

第五六号 (昭11・3・25)

創立三十五周年記念号

(奥村の回想記事多し)

第五七号 (昭11・4・7)

第五七号 (昭11・4・21)

第五八号 (昭11・5・7)

第五八号 (昭12・1・2)

新春雑想

吉田絃二郎

軍事後援事業

一般社会事業

第一〇一号 (昭14・8・10)

童話 『健坊兵隊』

廣田七之介

連載小説 愛の陽炎(終回)

山岡 莊八

漫画 ヒノマルちゃん

長谷川町子

第一〇二号 (昭14・9・10)

大御心―明治天皇御集を拜読して

本野 久子

女性月評

神近 市子

連載小説 美しき残照(一)

三回(一〇四号)で完諷訪 三郎

漫画 ヒノマルちゃん

長谷川町子

第一〇三号 (昭14・11・10)

本野前會長を送る

日本の新女性

ペンリントン夫人

第一〇四号 (昭14・11・10)

婦人報國の大道こそ私共の進む路である

愛國婦人會長

水野萬壽子

パリ時代の本野久子刀自

茂木 ふさ

漫画 ヒノマルちゃん

長谷川町子

長野版 地方便り

第一〇五号 (欠)

第一〇六号 (昭15・1・10)

新春を迎へて

水野萬壽子

映画 奥村五百子完成苦心座談會

(監督――豊田四郎、奥村五百子――杉村春子)

グラビア 奥村五百子(その一)

奥村五百子(その二)

連載小説 青春の旅(二) 五回(二一〇号)で完 日比野士朗
第二〇七号(昭15・2・10)

何を訊き何を語ったか

愛婦金子副會長・精勤岡部總長對談會

勤王の歌人蓮月尼

中山 道子

女性よ美しくあれ

深尾須磨子

第二〇八号(昭15・3・10)

婦人報國運動は一會員の實行から

水野萬壽子

第二〇九号(昭15・4・10)

村の女神

矢木澤 健

第二一〇号(昭15・5・10)

コント 碗豆と村の娘達

真杉 静枝 長谷川三千繪

奥村五百子先生を偲びて

多辻 敏

第二一一号(昭15・6・10)

國家の發展と婦人の衛生思想

水野萬壽子

連載小説 わが家(一) 三回(一一三号)で完

芹澤光治良 長谷川利子繪

コント 未來の大將

仲町 貞子 長谷川町子繪

貧民の慈母瓜生岩子

中山 道子

第二一二号(昭15・7・10) 皇軍慰問號

短篇小説 理想の人

加藤 武雄

名婦傳 小野寺たん

山岡 莊八

素人劇 日本男児生れたり

田郷 虎雄

時局漫才 愛豚行進譜

玉松一郎 ワカナ

第二一三号(昭15・8・10)

兒童劇 夕陽の丘

近藤 春雄

漫画 エプロンミコチャン

長谷川町子

第二一四号(昭15・9・10)

扉の繪

深澤 紅子

連載小説 美しき山脈(二)

四回(二一七号)で完氏原 大作

漫画 エプロンミコチャン

長谷川町子

第二一五号(昭15・10・10)

漫画 エプロンミコチャン

長谷川町子

第二一六号(昭15・11・10)

優渥なる令旨を奉戴して

水野萬壽子

第二一七号(昭15・12・10)

和歌 奉祝紀元二千六百年

斎藤茂吉 吉田貫三郎繪

奉祝典に参列して

水野萬壽子

詩 小鳥

西村 皎三

名婦傳 情熱の人廣岡淺子

中山みち子 長谷川まり子繪

漫画 エプロンミコチャン

長谷川町子

第二一八号(昭16・1・10)

和歌 漁村曙

佐々木信綱 小穴隆一繪

新しき覺悟

水野萬壽子

名婦傳 おばあさまの日

中山みち子

第二一九号(昭16・2・10)

扉 大政翼賛會文化部長

岸田國士 仲田菊代繪

名婦傳 本阿爾光悦の母

海音寺潮五郎 今村恒美繪

連載小説 歌日記(二) 七回(一二五号)で完 中河 與一

國民學校と母親 成蹊学園 滑川 道夫

第二二〇号 (昭16・3・10)

扉 婦徳

安岡正篤文 中川一政繪

名婦傳 澤橋兵太夫の母

海音寺潮五郎 今村恒美繪

和歌

斎藤茂吉選

俳句

長谷川かな女選

第二二二号 (昭16・4・10) (長野版)

愛婦が歩んで来た四十年の大きな足跡

愛國婦人會 小原 新三

真田信之の妻

海音寺潮五郎

歌日記(三)

中河與一 水沢決画

劇 奥村五百子

北村喜八作 吉田謙吉繪

第二二三号 (昭16・5・10)

名婦傳 長久保なほ

海音寺潮五郎 巽龍三郎繪

第二二三号 (昭16・6・10)

令旨を奉戴して

水野萬壽子

名婦傳 頼山陽の母

海音寺潮五郎 吉田貫三郎繪

座談會 大政翼賛に邁進するわが分會を語る

和歌

斎藤茂吉選

俳句

長谷川かな女選

第二二四号 (昭16・7・10)

婦人團體統合について

水野萬壽子

名婦傳 上村松園

中山みち子 吉田貫三郎繪

第二二五号 (昭16・8・10)

名婦傳 中山家範の妻

海音寺潮五郎

和歌

斎藤茂吉選

俳句

長谷川かな女選

第二二六号 (昭16・9・10)

扉歌

斎藤茂吉 中川一政繪

隨筆 村の婦たち

和田 傳

名婦傳 大楠公夫人

海音寺潮五郎 吉田貫三郎繪

和歌

斎藤茂吉選

俳句

長谷川かな女選

第二二七号 (昭16・10・10)

詩 おんたまを故山に迎ふ(詩歌翼賛より)

三好 達治

新しい花嫁

諏訪 三郎

附録 愛國婦人會撰定『家庭強化の歌』

のぼる朝日に照る月に

山田耕筰作曲

銃後の日本大丈夫

第二二八号 (昭16・11・10)

扉歌 榮えゆく國

中河 幹子

繪

中川 一政

小説 湖畔の彌榮

丸山義二 巽龍三郎繪

名婦傳 二宮金次郎と二人の婦人

中山道子 吉田貫三郎繪

和歌

斎藤茂吉選

俳句

長谷川かな女選

第二二九号 (昭16・12・10)

扉

和歌 皇國の母

名婦傳 臨戦下の婦人たち

漫画 クニチヤンの禮法

和歌

俳句

東條英機 仲田菊代繪

中河 幹子

城夏子 吉田貫三郎繪

長谷川町子

斎藤茂吉選

長谷川かな女選

第一三〇号 (昭17・1・10)

新春の誓

大東亜戦争と日本婦人

名婦傳 女性の決意について ―和氣廣蟲のこと―

小原 新三

水野萬壽子

城夏子 吉田貫三郎繪

窪川 稲子

斎藤茂吉選

長谷川かな女選

小説 子供

和歌

俳句

第一三二号 (昭17・2・10) (終刊号)

扉

解散に際して挨拶

愛國婦人會の回顧と統合に就いての所感

會誌「愛國婦人」を終刊するに當りて

小説 蜜柑のたより

大日本婦人會を語る

芹澤光治良

仲田菊代繪

中川一政繪

水野萬壽子

小原 新三

富安 龍雄

和歌

俳句

斎藤茂吉選

長谷川かな女選

本稿は「『愛國婦人』文芸関係主要記事(一)」(『金沢大学国語国文』第二四号)に次ぐものである。作成に当たって呉東龍氏の助力を仰いだことを付記する。